

人も地球も健康に

Yakult

株式会社ヤクルト本社

第68期 中間期 **株主通信**

2019年4月1日 ~ 2019年9月30日

掲載内容

- 01 株主の皆さまへ／連結業績ハイライト
- 03 セグメント別業績概況
- 07 第2四半期連結財務諸表等
- 09 特集 プロバイオティクスの可能性を求めて
- 11 コラム グローバルブランド「Yakult」の取り組み
- 13 会社情報



✦ To Our Shareholders / Highlights of Consolidated Financial

ごあいさつ



代表取締役社長

根岸考成

平素は格別のご高配を賜り、あつく御礼申し上げます。

ここに、2019年4月1日から2019年9月30日までの経営成績につきまして、連結の業績を中心にご報告申し上げます。

2019年12月

当第2四半期について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の変動の影響に留意する必要があるものの、所得環境の改善が続くなかで、景気は緩やかな回復基調で推移しています。

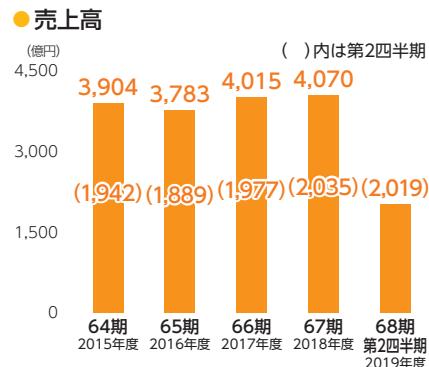
このような状況の中で、当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクスの啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してきました。また、販売組織の拡充、新商品の研究開発や生産設備の更新に加え、国際事業や医薬品事業にも積極的に取り組み、業績の向上に努めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結



私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。

連結業績 ハイライト

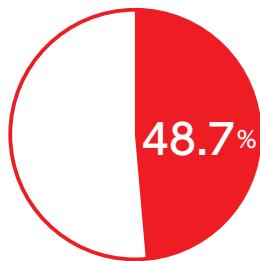




Financial Result by Segments

※セグメント別の売上高構成比は、セグメント間売上高の消去前金額に対する構成比です。

飲料および食品製造販売事業部門(日本)

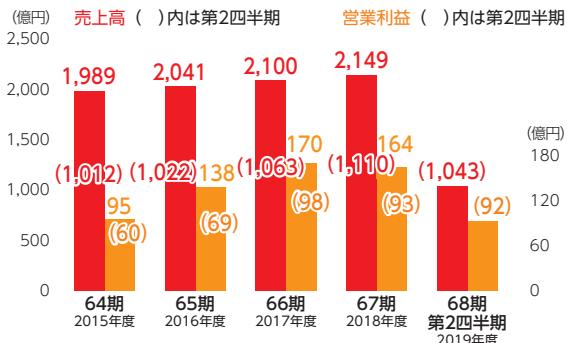


売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高
1,043 億円
 (前年同期比: 6.1% ↓)

営業利益
92 億円
 (前年同期比: 1.1% ↓)



日本国内における乳製品につきましては、当社独自の「乳酸菌 シロタ株」や「ビフィズス菌 BY株」などの科学性を広く普及するため、エビデンスを活用し、地域に根ざした「価値普及」活動を継続的に展開しました。

宅配チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト400」および「ヤクルト400LT」を中心に、既存のお客さまへの継続飲用の促進および新規のお客さまづくりに努めました。また、インターネット注文サービス「ヤクルト届けてネット」を活用し、新たなお客さまとの接点づくりを強化しました。さらに、宅配組織の強化を図るため、ヤクルトレディの働く環境整備を推進するとともに、採用活動を積極的に実施しました。

店頭チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「Newヤクルト」および「Newヤクルトカロリーハーフ」を中心に、プロモーションスタッフの試飲宣伝による「価値普及」活動を推進しました。また、演出資材を活用した売り場づくりを展開し、店頭での視認性向上を図りました。

商品別では、のむヨーグルト「ジョア」について、期間限定アイテム「南国パン」を7月に発売し、ブランドの活性化を図りました。また、当社初の機能性表示食品で、一時的な精神的ストレスがかかる状態での「ストレス緩和」「睡眠の質向上」に機能がある乳製品乳酸菌飲料「Yakult(ヤクルト)1000」については、次代を担う商品と位置づけ、10月に関東1都6県で先行発売を開始しました。

一方、清涼飲料につきましては、「Tough-Man Refresh(タフマンリフレッシュ)」において、「樺坂46」を起用したテレビCMを放映するとともに消費者キャンペーンを実施し、商品の認知率を向上させることで売り上げの増大を図りました。

このような取り組みを中心に販売強化に努めたものの、天候不順の影響等により、乳製品、清涼飲料ともに前期を下回る実績で推移しました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(日本)の連結売上高は1,043億円(前年同期比6.1%減)となりました。

NEWS &

TOPICS

2019

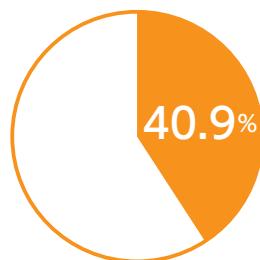
「BF-1(ビーエフワン)」に国内初 “食後の胃の負担をやわらげる”機能を表示

乳製品乳酸菌飲料「BF-1(ビーエフワン)」には、当社独自のビフィズス菌「B. ビフィダム Y株(B. ビフィダム YIT 10347)」が1本(100ml)に30億個含まれ、食後の胃の負担をやわらげる機能があります。2019年11月11日、「BF-1(ビーエフワン)」を国内初の胃に関する機能性表示食品として発売しました。



「ヤクルト」のキャップは、スカート状になっている周りの部分をすべて平らに開いてから、つまみ部分を引き上げると比較的きれいにはがすことができます。

飲料および食品製造販売事業部門(海外)



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

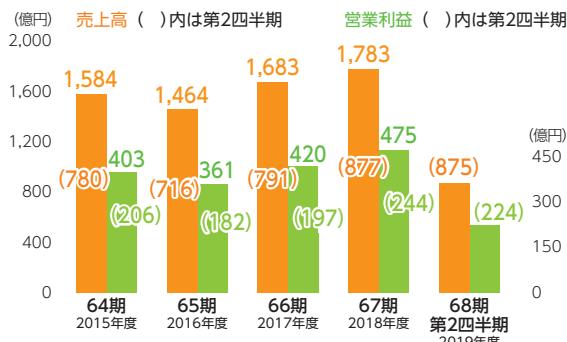
875 億円

(前年同期比: 0.2% ↓)

営業利益

224 億円

(前年同期比: 7.9% ↓)



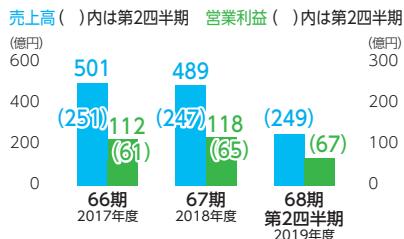
米州地域

売上高 249億円 (前年同期比: 0.7% ↑)

米州地域においては、ブラジル、メキシコおよび米国で乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売しています。

米国においては、米国東部での営業を開始し、販売対象エリアを米国全土に拡大しました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(米州地域)の連結売上高は249億円(前年同期比0.7%増)となりました。



アジア・オセアニア地域

売上高 585億円 (前年同期比: 0.2% ↑)

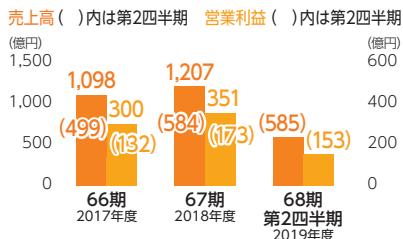
アジア・オセアニア地域においては、香港、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、マレーシア、ベトナム、インドおよび中国などで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売し、アラブ首長国連邦(UAE)などでは「ヤクルト」などを輸入販売しています。

中国においては、今後の販売地域の拡大および市場深耕による需要増加に対応するため、無錫第2工場の建設開始を2020年5月に予定し準備を進めています。

アラブ首長国連邦(UAE)においては、「乳酸菌 シロタ株」を1本に300億個含む乳製品乳酸菌飲料「ヤクルトゴールド」を9月に発売しました。

ミャンマーにおいては、「ヤクルト」の製造、販売を8月に開始しました。これにより、海外進出数については、39の国と地域に販売網が拡大しました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(アジア・オセアニア地域)の連結売上高は585億円(前年同期比0.2%増)となりました。



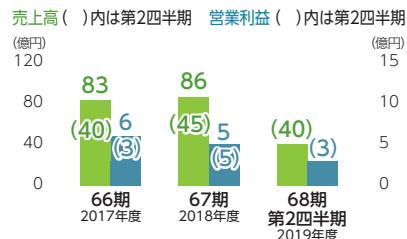
ヨーロッパ地域

売上高 40億円 (前年同期比: 9.9% ↓)

ヨーロッパ地域においては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などをオランダで製造し、同国を含め、ベルギー、イギリス、ドイツ、オーストリアおよびイタリアなどで販売しています。

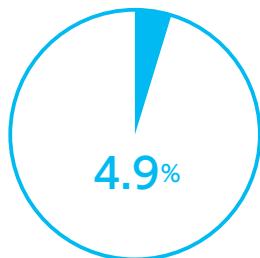
ヨーロッパにおいては、プロバイオティクスを普及するための活動に対する厳しい規制の中で、健康強調表示(ヘルスクレーム)の承認に向け、各種の取り組みを行っています。このような状況の中、各国事業所による市場特性に合った販売活動の展開により、持続的成長を目指しました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(ヨーロッパ地域)の連結売上高は40億円(前年同期比9.9%減)となりました。



Financial Result by Segments

医薬品製造販売事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

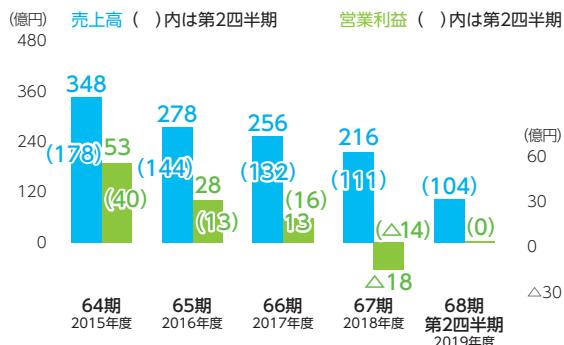
104 億円

(前年同期比：6.3% ↓)

営業利益

0 億円

(前年同期比：－ ↑)



医薬品につきましては、がんおよびその周辺領域に特化した当社製品の啓発活動や適正使用を推奨する活動を推進しました。

当社の主力製品である抗悪性腫瘍剤「エルプラット」については、医療関係者を対象とした講演会などを積極的に開催し、シェアの維持に努めました。後発医薬品へ切り替える医療機関が増加傾向にあるものの、先発医薬品を開発した当社の強みである情報提供力や医療関係者との信頼関係により、引き続き「エルプラット」を選択してもらうための活動を展開しました。しかしながら、後発医薬品への置き換えが徐々に進んだことにより、売り上げに影響を受けました。

そのほか、後発医薬品の当社主力製品である代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤「ゲムシタピン『ヤクルト』」などの販路拡大にも努めました。また、6月に発売した抗悪性腫瘍剤「カペシタピン錠『ヤクルト』」お

よび「ゲフィチニブ錠『ヤクルト』」の速やかな市場浸透を図る活動を推進し、売り上げの増大に努めました。

一方、研究開発においては、ベラステム社(米国)と日本における開発および商業化に関する独占的ライセンス契約を締結したPI3K阻害剤「デュベリシブ」や、4SC社(ドイツ)から導入しているHDAC阻害剤「レスミノスタット」などの開発品目の臨床開発を推進しました。これらにより、今後、がんおよびその周辺領域において、さらなる強固な地位の確立を目指します。

これらの結果、医薬品製造販売事業部門の連結売上高は104億円(前年同期比6.3%減)となりました。

NEWS &

TOPICS

2019

「ヤクルトCSRキャンペーン」を実施

2019年6月、当社グループ全従業員向けに「ヤクルトCSRキャンペーン」を実施しました。海洋プラスチックごみの問題解決に向けた取り組みを推進する「プラスチック・スマート」に対応し、自分ができる具体的な行動宣言を募集したところ、個人が22,985名、組織では128件もの応募がありました。なお、当キャンペーンは「プラスチック・スマート」キャンペーンの取り組み事例として、環境省の同ホームページに掲載されました。



その他事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

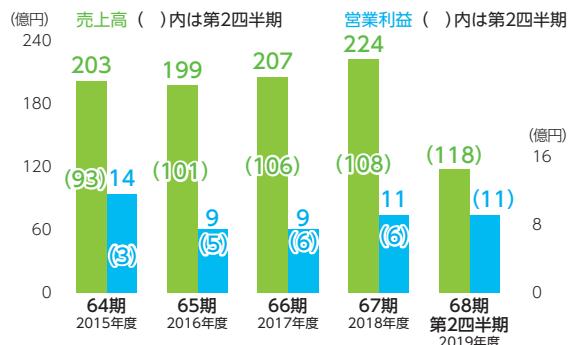
118 億円

(前年同期比：9.0% ▲)

営業利益

11 億円

(前年同期比：73.3% ▲)



その他事業部門には、化粧品の製造販売およびプロ野球興行などがあります。

化粧品につきましては、当社が創業以来培ってきた乳酸菌研究から生まれたオリジナル保湿成分「S.E.(シロタエッセンス)」の「価値普及」活動に重点をおき、お客さまの「内外美容」の実現と化粧品愛用者数の増大に努めました。

また、「S.E.(シロタエッセンス)」を配合した保湿効果の高い基礎化粧品「ラクトデュウ」シリーズを7月にリニューアル発売しました。リニューアルを機に、お客さまから要望の多かった「ラクトデュウ S.E.ミルク」を新たに導入するとともに、テレビCMを放映し商品の認知率を向上させることで、売り上げの増大に努めました。

一方、プロ野球興行につきましては、神宮球場において各種イベントを通じたファンサービスやさまざまな情報発信を行い、入場者数の増大と売上増加に努めました。

これらの結果、その他事業部門の連結売上高は118億円(前年同期比9.0%増)となりました。

ブランドファイナンス社「Most Valuable Food Brand in Japan」で「Yakult」が1位に!

企業ブランドの価値評価を行う、英国のブランドファイナンス社が発表した「The Brand Finance Japan 100 2019 report」において、「Yakult」は、自動車、アパレルなど25部門に分けられた中の食品部門「Most Valuable Food Brand in Japan」の1位となり、全部門を通じた「Top Japan 100」では72位にランクインしました。





Consolidated Financial Statements



第2四半期連結貸借対照表

単位：億円

科目	第67期 2019年3月31日現在	第68期第2四半期 2019年9月30日現在
資産の部		
流動資産	2,476	2,555
固定資産	3,708	3,583
有形固定資産	2,000	2,000
無形固定資産	47	43
投資その他の資産	1,660	1,540
資産合計	6,185	6,139
負債の部		
流動負債	1,154	1,086
固定負債	1,107	1,077
負債合計	2,262	2,163
純資産の部		
株主資本	3,657	3,823
資本金	311	311
資本剰余金	417	417
利益剰余金	3,477	3,645
自己株式	△ 548	△ 551
その他の包括利益累計額	△ 84	△ 218
その他有価証券評価差額金	304	236
為替換算調整勘定	△ 363	△ 430
退職給付に係る調整累計額	△ 26	△ 24
非支配株主持分	350	371
純資産合計	3,922	3,976
負債・純資産合計	6,185	6,139

第2四半期連結損益計算書

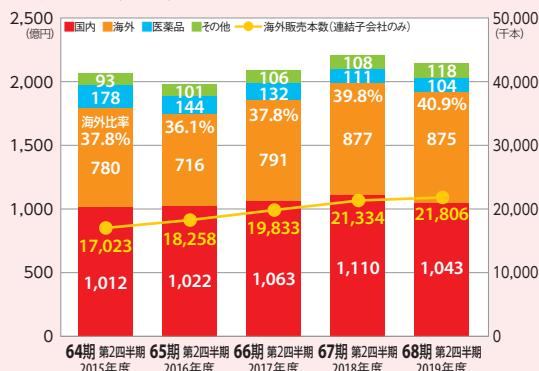
単位：億円

科目	第67期第2四半期累計 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	第68期第2四半期累計 2019年4月1日から 2019年9月30日まで
売上高	2,035	2,019
売上原価	854	845
売上総利益	1,180	1,174
販売費及び一般管理費	942	937
営業利益	237	237
営業外収益	66	76
受取利息	20	26
受取配当金	11	11
持分法による投資利益	21	27
その他	12	11
営業外費用	9	10
支払利息	3	4
為替差損	—	3
その他	5	2
経常利益	295	303
特別利益	22	19
投資有価証券売却益	16	18
その他	5	0
特別損失	1	14
投資有価証券評価損	—	8
その他	1	6
税金等調整前四半期純利益	316	307
法人税等	77	76
四半期純利益	238	231
非支配株主に帰属する四半期純利益	25	24
親会社株主に帰属する四半期純利益	213	206

第68期第2四半期のポイント

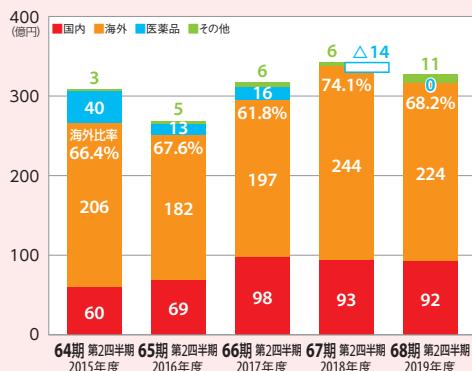
1. 全体：売上高、営業利益ともほぼ前期並み
2. 国内飲料：前期の生産機器売上増加の反動および乳製品販売本数減により、減収・減益
3. 海外飲料：アジアを中心に販売本数増および価格改定効果があったものの、為替影響・経費増により減収・減益
4. 医薬品：エルプラットの売上数量の減少により減収、研究開発費の減少等により増益

▶ 売上高推移 (連結)



(注) セグメント間売上高の消去前金額で表示しています。

▶ 営業利益推移 (連結)



(注) 全社費用等の調整前金額で表示しています。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 単位:億円

科目	第67期第2四半期累計 2018年4月 1日から 2018年9月30日まで	第68期第2四半期累計 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	224	223
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 133	3
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 80	△ 96
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 37	△ 11
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 26	119
現金及び現金同等物の期首残高	1,059	1,031
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,032	1,151

キャッシュ・フローのポイント

- ① 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益307億円、減価償却費等があったことにより、223億円(前年同期比1億円の収入減)となりました。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フローは、主に生産設備の新設、増設および更新による固定資産の取得があった一方で定期預金の払戻があったことにより3億円(前年同期比137億円の支出減)となりました。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フローは、主に借入およびリース債務の返済や配当金の支払い等により△96億円(前年同期比16億円の支出増)となりました。

★より詳細な財務情報は、当社ホームページの「IR情報」で各種資料がご覧いただけます。

<https://www.yakult.co.jp/company/ir/>

ヤクルト IR情報

検索

プロバイオティクスの可能性を求めて

ヤクルトはプロバイオティクスのパイオニアとして、これまで数多くの科学的エビデンスを積み上げています。今後とも世界トップレベルの研究開発力と技術力を強みに、プロバイオティクスのさらなる可能性を追究した商品で、お客さまの健康で楽しい生活づくりに貢献していきます。

ヤクルト Yakult 1000 を発売

(関東1都6県限定発売)

当社の研究開発・技術力を結集!

生きた「乳酸菌 シロタ株」を1本(100ml)に1,000億個含む、当社史上最高菌数・最高密度の乳製品乳酸菌飲料「Yakult(ヤクルト)1000」を関東1都6県限定で発売しました。臨床試験では、継続飲用により、ストレスを受けたときに増加するホルモン物質「コルチゾール」の唾液中での濃度の上昇が抑制されました。さらに、睡眠の質を高めることも確認されています。

当社史上
最高菌数・最高密度

乳酸菌 シロタ株
1,000億個

当社初の機能性表示食品

一般的な精神的ストレスが
かかる状況での
ストレス緩和
睡眠の質向上

腸内環境改善

届出表示

本品には乳酸菌 シロタ株(L. カゼイ YIT 9029)が含まれるので、一時的な精神的ストレスがかかる状況でのストレスをやわらげ、また、睡眠の質(眠りの深さ、すっきりとした目覚め)を高める機能があります。さらに、乳酸菌 シロタ株(L. カゼイ YIT 9029)には、腸内環境を改善する機能があることが報告されています。

機能性表示食品

- 食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
- 本品は、特定保健用食品とは異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。
- 本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

NEW
PRODUCTS



ヤクルト400Wを発売予定

(2020年1月20日より九州地区で限定発売)

「乳酸菌 シロタ株」と「ガラクトオリゴ糖」で腸から健康に!

乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト400W」を2020年1月20日より九州地区で限定発売します。「ヤクルト400W」は、生きて腸内に到達する「乳酸菌 シロタ株」(1本80ml当たり400億個含有)と腸内の乳酸菌を増やす「ガラクトオリゴ糖」を一緒に摂ることができます。

NEW
PRODUCTS



シンバイオティクス

=

プロバイオティクス

乳酸菌 シロタ株
400億個

+

プレバイオティクス

ガラクトオリゴ糖
5.0g

一般的に人の腸でよい働きをする乳酸菌やビフィズス菌などの微生物を「プロバイオティクス」、腸内の有用菌(ビフィズス菌など)の増殖を助けるものを「プレバイオティクス」と言います。「プロバイオティクス」と「プレバイオティクス」を組み合わせたものを「シンバイオティクス」と言います。

ヤクルト新商品の
お問い合わせ

ヤクルトお客さまセンター 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日、夏季休業、年末年始等は除く)

0120-11-8960 (携帯電話・PHSからは
ご利用になれません。)

ヤクルト

検索

これまでの研究により、
多くの科学的エビデンス
が確認されています。



ヤクルト中央研究所

グローバルブランド「Yakult」の取り組み

世界で一日平均4,000万本以上*愛飲されているヤクルトの乳製品。

ヤクルトはブランド認知・人々の健康のため世界でさまざまな取り組みを行っています。

*2019年3月期実績

健腸プロジェクト (メキシコ)



腸内細菌などの啓発活動の一環として「健腸プロジェクト」を発足。学校、医療施設などで情報提供活動を行っています。

健康教室+工場見学 (インドネシア)

社員などが講師となり、腸の大切さやプロバイオティクス、さまざまな疾患など、幅広いテーマで「健康教室」を開催しています。また、当社の企業姿勢や商品をより深く知っていただくため、工場見学を積極的に受け入れています。

サンプリング活動 (アメリカ)

MLBプロ野球チーム「ロサンゼルス・エンゼルス」とスポンサー契約を締結。球場内の広告掲出に加え、サンプリング活動も行っています。



当中間期海外販売本数No.1の
インドネシアのヤクルト



健康教室



工場見学

スポーツ支援 (オーストラリア)

スーパーラグビー出場チーム「メルボルン・レベルズ」とスポンサー契約を結び、選手の支援と競技普及に力を注いでいます。



お知らせ

ワールド・ブランディング・アワード(WBA)において、「ヤクルト」は世界で優れたブランドの一つとして3年連続で「ブランド・オブ・ザ・イヤー」(グローバル・アワード)を受賞しました。

まだまだ続くグローバルブランド「Yakult」の成長 ミャンマー連邦共和国で事業開始！

1964年、台湾ヤクルト株式会社の営業開始をスタートに、アジア・オセアニア、米州、欧州へとネットワークを広げ、生活文化や食習慣に応じた健康情報の提供や、しきたりや文化を大切にするなど、それぞれの国や地域にあった展開で、人々に愛される地域密着の事業展開を図っています。

今年8月1日に、ミャンマー連邦共和国(以下、ミャンマー)で乳酸菌飲料「ヤクルト」の生産・販売を開始しました。これにより、ASEAN地域への進出は8か国目、日本を含む40の国と地域に販売網が拡大されました。ミャンマーの人口は約5,370万人(2018年)、今後の経済発展も見込まれ、また国民の健康に対する意識も高まっている有望市場です。

今回ミャンマー最大の都市ヤンゴン市の郊外ティラワ経済特別区に工場を建設し、ヤンゴン市を中心に「ヤクルト」の販売を行っています。今後の状況に応じて順次、販売地域を拡大し、ミャンマーの人々の健康とヤクルトレディの採用を通じた女性の雇用創出に貢献していきます。

今後ともグローバルブランド「Yakult」の強みを活かし、市場の拡大と深耕を加速させていきます。



ヤンゴン市の中心街

商 品 名	ヤクルト
容 量 ・ 形 態	80ml単品、80ml×5本パック
希望小売価格	(単品)300チャット/本(約21円) (5本パック)1,500チャット/5本(約105円)
販売開始日	2019年8月1日
販売地域	ヤンゴン市およびその周辺
販売チャネル	ヤクルトレディによる訪問販売 スーパーマーケットなどの店頭販売



ティラワ経済特別区の新工場

Information

現在、日本を含む40の国と地域で、主として乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」の製造、販売を行っており、世界中で毎日4,000万人(2019年3月期実績)の方々にご愛飲いただいています。

【世界の乳製品販売本数】



海外：2019年1月～6月の1日当たり平均本数
日本：2019年4月～9月の1日当たり平均本数

EUROPE

- ▶国と地域：13
- ▶1日当たりの販売本数：63万本

ヨーロッパ地域

- オランダ
- ベルギー
- フランス
- イギリス
- ドイツ
- ルクセンブルク
- スペイン
- アイルランド
- オーストリア
- イタリア
- マルタ
- スイス
- デンマーク

THE AMERICAS

- ▶国と地域：6
- ▶1日当たりの販売本数：590万本

米州地域

- ブラジル
- アメリカ
- メキシコ
- カナダ
- ウルグアイ
- ベリーズ

JAPAN

- ▶1日当たりの販売本数：939万本

ASIA AND OCEANIA

アジア・オセアニア地域

- ▶国と地域：20
- ▶1日当たりの販売本数：2,449万本



- 台湾
- インドネシア
- アラブ首長国連邦
- 香港
- オーストラリア
- オマーン
- タイ
- 中国
- バーレーン
- 韓国
- マレーシア
- カタール
- フィリピン
- ニュージーランド
- クウェート
- シンガポール
- ベトナム
- ミャンマー
- ブルネイ
- インド
- (2019年8月販売開始)

会社概要

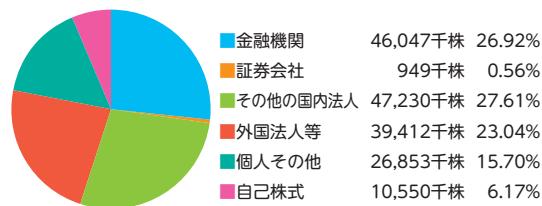
商号 株式会社ヤクルト本社
(Yakult Honsha Co., Ltd.)
設立 1955年4月9日
本店 東京都港区東新橋1丁目1番19号
電話 03 (3574) 8960 (大代表)
資本金 311億17百万円
従業員 2,941人

(注) 上記従業員数には、関係会社等への出向者315人および嘱託144人を含んでいます。

株式の状況

発行可能株式総数 ……………700,000,000株
発行済株式総数 ……………171,045,418株
株主数 ……………26,597名

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



役員

代表取締役社長	根岸 孝成	取締役	今田 正男	常勤監査役	阿部 晃範
取締役	成田 裕	取締役	リチャード ホール	常勤監査役	山上 博資
取締役	若林 宏	取締役	安田 隆二	監査役	奥平 哲彦
取締役	石川 文保	取締役	福岡 政行	監査役	谷川 清十郎
取締役	伊藤 正徳	取締役	前田 典人	監査役	小林 節子
取締役	土井 明文	取締役	パスカイグドバトリニ	監査役	吉田 宏一
取締役	林田 哲哉	取締役	戸部 直子	監査役	手塚 仙夫
取締役	平野 晋				*非常勤

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ダノン プロバイオティックス ピーティイー リミテッド	10,612	6.20
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,148	4.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	7,583	4.43
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	6,492	3.80
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口	4,957	2.90
共進会	3,802	2.22
松尚株式会社	3,417	2.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	2,840	1.66
麒麟ビバレッジ株式会社	2,458	1.44
株式会社みずほ銀行	2,186	1.28

(注) 共進会は、当社の取引先であるヤクルト販売会社を会員とする持株会です。
上表のほか、当社は自己株式 10,550千株を保有しています。

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報、CSR活動などさまざまな最新情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さまに向けましては、トップメッセージ、決算短信、有価証券報告書のほかIRニュースなども掲載しております。ぜひご覧ください。



<https://www.yakult.co.jp/>

株主優待

当社商品の提供

毎年3月31日現在で100株以上所有の株主の皆さま

●当社商品詰め合わせを贈呈

※1,000株以上所有の株主の皆さまは商品内容が異なります。

※保有期間3年以上の株主の皆さまは「化粧品」を追加進呈します。

※発送は6月上旬の予定です。

神宮球場開催「東京ヤクルトスワローズ」公式戦の
入場券と引換えることができる

申し込み用ID、パスワードを発行

毎年9月30日現在で100株以上所有の株主の皆さま

※優待内容詳細につきましては、2020年2月までに、当社ホームページにてご案内を予定しています。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで

株主総会 定時株主総会 毎年6月中
臨時株主総会 必要に応じ随時

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

公告掲載方法 電子公告 <https://www.yakult.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社

事務取扱場所 〒101-0054
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
(NMF 竹橋ビル6F)

(郵便物送付先)
(連絡先) 〒168-8522
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター
☎0120-49-7009

株式に関するお手続きについて

1. 未支払配当金のお支払い

株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

2. 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定など

お取引の証券会社等にお申し出ください。なお、特別口座に記録された株式の手続き(証券会社に開設した口座への振替など)に関しましては、すべて当社の特別口座管理機関である東京証券代行株式会社にお問い合わせください。

Yakult

株式会社ヤクルト本社

証券コード2267

東京都港区東新橋1丁目1番19号

TEL:03-3574-8960(大代表)

<https://www.yakult.co.jp/>

